

平山蘆江 ひらやま りゅうけい

小説家。明治十五年十一月十五日兵庫縣生れ、昭和

二十八年四月十八日没（八二—一九三三）。本名壯太郎。別號武者所、無

名氏、蘆江生、△生等。長崎商業學校、東京府立第四中學校共々中退。

日露戰時渡滿放浪。明治四十年『都新聞』記者、昭和五年浪社、翌

年第二次『大眾文藝』創刊。都々逸、小唄の作詞も多し。

著書『洋行土産點評紙』（平山武者所名、明治四十二年十月十日博文書

院）、『文壇艱難物語博士』（明治四十二年十一月十八日同志堂書店）、

『おくりくり上手』（大正五年十一月二日練達堂書店）、『まじなひと

久人』（大正六年一月二十日藤間山陽社）、『西南戦争・前編』（大

正十五年九月七日全至社）、『唐人船・大の巻』（五版・大正十五年

十月十七日全至社）、『遠出番』（昭和二年二月十八日南東書院）、

『煩惱道中記』（昭和二年四月十五日全至社）、『妖艶淪落實話』（昭

和五年一月十五日平凡社→明治大正實話全集）、『唐人船』（昭和七年

四月十日春陽堂→日本小説文庫）、『左り樓人情』（昭和八年六月

十日、普及版・十年九月二十日岡倉書房）、『考證讀物集』全二冊（長

谷川伸一合著、昭和八年七月十四日岡倉書房）、『續篇左り樓人情』（昭

和八年九月十九日岡倉書房）、『東京四季』（昭和八年十月二十日岡

倉書房）、『藝者繁昌記』（昭和八年十一月二十日岡倉書房）、『藝

者花暦』（昭和九年五月二十日岡倉書房）、『蘆江歌集』（昭和九年

七月二十日岡倉書房）、『平山蘆江篇—血風篇—一番船』（昭

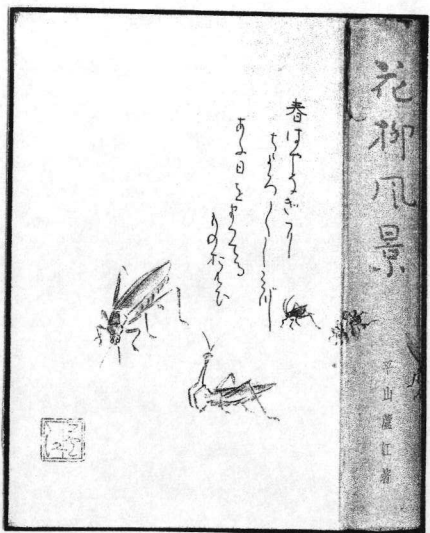
和九年十一月十二日非凡閣→新選大衆小説全集）、

隨筆集『人間道場』（昭和九年十一月二十日岡倉書



房）、『花柳行狀記』（昭和九年十二月十八日岡倉書房）、『女人覺

- 之帳』(昭和十年四月、千白岡倉書房)、
 『ニ味線情趣』(昭和十年十一月、千白岡倉書房)、
 『花柳風景』(昭和十一年二月、千白岡倉書房)、
 『夫婦讀本』(昭和十一年十二月十七日岡倉書房)、
 『藝者の戯』(昭和十二年六月、千白岡倉書房)、
 『馬賊の旗』(昭和十二年十二月十日岡倉書房)、
 『菩薩祭』(昭和十四年一月十九日岡倉書房)、
 『續女一人』(昭和十四年六月、千白岡倉書房)、
 『長崎文化物語』(合著、長崎文化會、
 長崎文化會、^{福田清人}本山桂川編、昭和十六年十一月、千白八弘書店)、
 『薩摩兵児』(昭和十七年九月十五日淡海堂出版株式會社)、
 『熊本龍城』(昭和十七年九月、千白天作書房)、
 『黃龍旗—亞細亞太平記(第一部)』(昭和十七年十二月、千白淡海堂出版株式會社)、
 『飯能戰争』(昭和十八年一月、千白新止堂)、
 『長崎出島』(昭和十八年二月十八日婦人之家社)、
 『むかしの哥集』(合著、^{中山春海}油出一谿編、昭和十九年新春跋、明治、^{徳公會}、^{隨筆めらふと}』(昭和十九年二月五日婦人之家社)、
 『糸みぢ』(昭和二十一年九月、千白一聯社)、
 『花柳千夜一夜(左)樓人情』(昭和二十一年十一月十五日平山蘆江著作集刊行會)、
 『杵おこらひ』(昭和二十二年一月十五日一聯社)、
 『吉原文庫』(昭和二十二年十月、千白めい書房)、
 『女漫展室』(昭和二十二年十一月、千白世東書房。^{二橋音八}平山清郎共著)、
 『隨筆集』、『笑話』(合著、中村義一編、昭和二十二年十一月、千五百大内書店)、
 『本日の藝談』(昭和二十四年六月十日京都・和敬書店)、
 『ひびだの樓』



- (昭和二十七年二月)『十五日夜書活』、
『うめびき』(昭和二十七年四月)『十五日夜書活』、
『東京おぼえ帳』(昭和二十七年三月)『十日、再刊』、
『二十八年四月』『二十日夜書活』、
『新とせ物語』(昭和二十七年九月)『十五日夜書活』、
『粹人辭筆』(合著・内外タイムス社編、昭和二十七年十月)『十五日夜書活』、
『台邊物語』(昭和二十七年十月)『二十日夜書活』、
『隨筆』(日本神話一別名台出づる國誕生)『(昭和二十八年二月)『十五日夜書活』、
『川原解説』(昭和二十八年五月)『十五日夜書活』、
『きんぎょの帖』(昭和二十九年二月)『十五日夜書活』(等)。